

有限会社  
富岡商店

# テーブルウェアだけに限らない 新たな商品の開発で樺細工の可能性を見出す



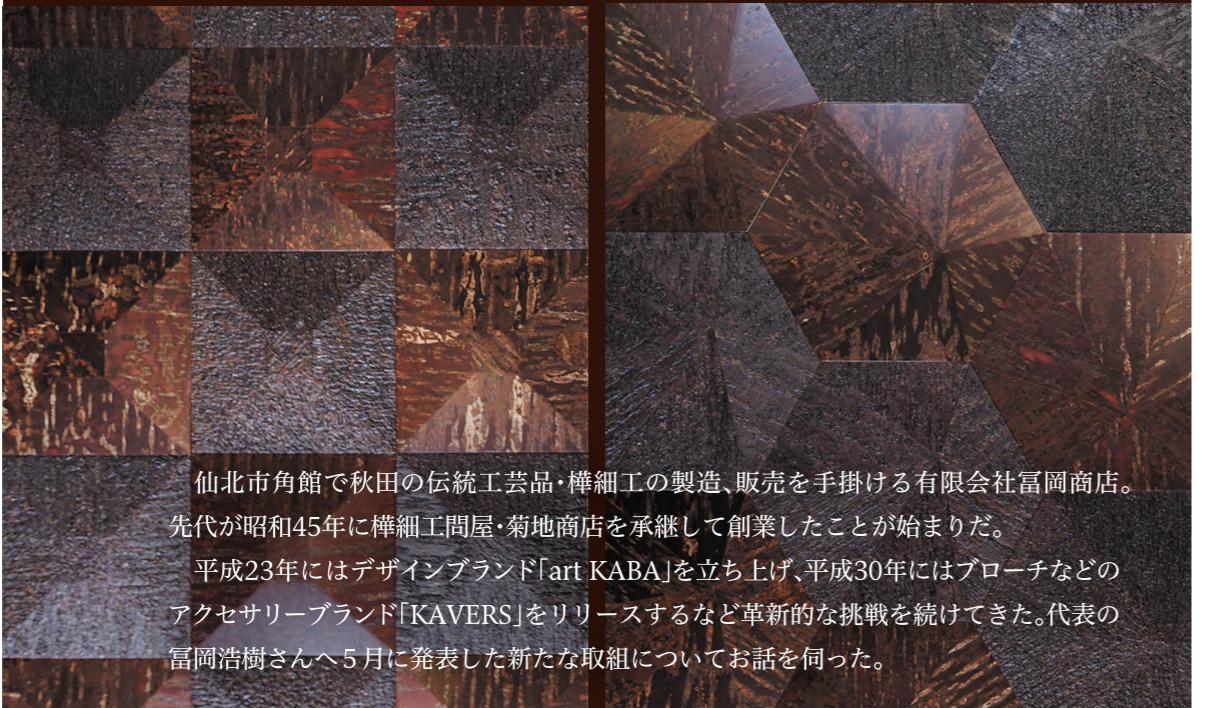
有限会社 富岡商店  
代表取締役 富岡 浩樹

本店  
〒014-0325  
仙北市角館町東勝楽丁2-2



HP

営業本部  
〒014-0202  
大仙市上鶯野字熊野71-3  
TEL: 0187-56-3239  
FAX: 0187-56-3826  
<https://tomioka-shoten.com/>



仙北市角館で秋田の伝統工芸品・樺細工の製造、販売を手掛ける有限会社富岡商店。先代が昭和45年に樺細工問屋・菊地商店を承継して創業したことが始まりだ。平成23年にはデザインブランド「art KABA」を立ち上げ、平成30年にはブローチなどのアクセサリーブランド「Kavers」をリリースするなど革新的な挑戦を続けてきた。代表の富岡浩樹さんへ5月に発表した新たな取組についてお話を伺った。

## 国指定伝統的工芸品・樺細工 需要の変化をいち早く感じ取る

先代である父が樺細工問屋だった「菊地商店」を承継して創業したのが昭和45年のこと。富岡浩樹さんは、平成17年から代表に就任し、同時に本店を角館に移転してセレクトショップ『アート&クラフト香月』をオープンしたが、需要が変わってきたと感じた。

樺細工は国指定伝統的工芸品。1781年から1789年の間に阿仁地方から角館に伝わったとされる貴重な技術で、山桜の樹皮を用いた細工物だ。防湿・防乾に優れ、なおかつ堅牢であるという特徴を持つ。そのため、古くから茶葉や薬を保管するものとして愛用してきた。時代の変遷とともに、需要が落ち込んでいると感じていた富岡さんは、代表



貴重な伝統工芸を守るために

精力的に革新をし続ける

樺細工問屋の挑戦



①樺細工の加工には熟練の職人の手作業が欠かせない。取材時は、高温に熱したコテを使い、丁寧に樺を貼り合わせていた。

②限られた原材料を活用しきる。樹皮の個性に合わせたアプローチが必要。



就任前から新たな商品づくりに取り組んでいた。「青山にある伝統的工芸品産業振興協会を通じて、他の伝統工芸品の产地の方と連携して商品を開発したり、東京都大田区の金属加工業の方とコラボしてランプシェードを作ったり。それまでの型にはまった製品だけでなく、新たな樺細工の可能性を模索していました。」

## 東日本大震災による海外展開と 海外クリエイターとの出会い

平成23年の東日本大震災で売上が落ち込んだことがきっかけで、海外に目を向けた。樺細工に秋田杉や塩化ビニル樹脂などの異素材を組み合わせることで、現代的なエッセンスを取り入れたデザインブランド「art KABA」を立ち上げた。「これにより世界的ブランドからオファーを獲得でき、海外展開のきっかけとなりました。その後、フランス在住のデザイナーで、著名なブランドのアートディレクターを経験しているマウリシオ氏と出会い、懇意にしています。昨年夏、角館に来てくれたのですが、翌月私がパリを訪れた際に、新商品の企画書を見せてくれました。」

マウリシオ氏が提案してくれたのは、住宅用のウォールパネルだった。ターゲットはフランスの富裕層だ。

「フランスの住宅事情や文化など、私には全く知識がありません。現地に住むクリエイターでなければ、考えつかない樺細工の活用法だと感じました。」

## 既成概念にとらわれず 新たな樺細工の活路を見出す

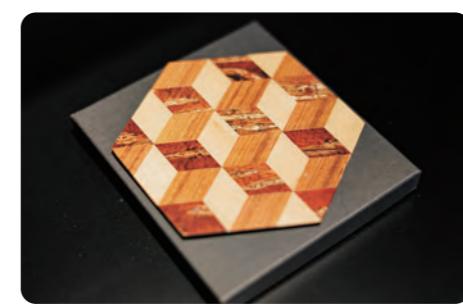
マウリシオ氏からの提案は、住宅の壁に取り付けるアクセントパネル。樺の素材の個性や仕上げによって生まれる質感の違いを活かしつつ、8種類のデザインを展開している。どれもマウリシオ氏が角館に訪れたときにインスピレーションされたもので、刀や弓、鉄扇、兜、鎧といった武家屋敷が立ち並ぶ角館にふさわしい日本の伝統的なモチーフが特徴だ。

「国内の展示会で取引先から『樺細工、いい方向に脱皮できましたね』と言われ、うれしかったですね。樺細工の魅力はひとつひとつが違う表情であること。今回の商品はその特徴をうまく捉えたものになっています。地域を知るクリエイターとコラボする重要性も再認識しました。」

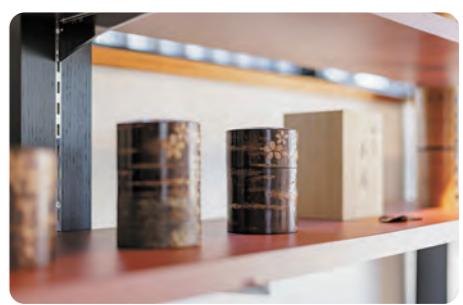
この新商品は、5月に記者会見で正式リリースを迎えたばかり。富岡商店の新たなフェーズが今、始まる。



日本の伝統文様をアレンジして彫り込んだアクセサリー。



目の錯覚を起こすユニークなデザインのプレート。



ヤマザクラの模様が入った伝統的な茶筒。